

## ◎生活福祉学科の3つの方針

### 学位授与方針 (ディプロマポリシー)

生活福祉学科では、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、短期大学士（介護福祉学）の学位を授与します。

- ① 相手の立場に立って考えることができる。
- ② 利用者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーション技法を身につける。
- ③ 常に利用者本位の視点をもつことができる。
- ④ 介護に関する法律・制度、施策の基礎的内容について理解できる。
- ⑤ 介護の専門職として人権擁護の必要性を理解できる。
- ⑥ 対人援助における職業倫理の重要性を理解し身につける。
- ⑦ 基礎的な介護の知識・技術を習得し、形態別に応用することができる。
- ⑧ 介護実践の根拠を説明することができる。
- ⑨ 利用者の活動能力、隠れた能力を引き出し、生活支援に活用・発揮させることができる。
- ⑩ 他の職種の仕事や役割を理解し、同僚・多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解し、チームに参画する能力を身につける。
- ⑪ 利用者の生活している状態を的確に把握し、その人らしい生活の支援ができるためのアセスメント、介護計画を作成することができる。
- ⑫ 記録・報告の意義を理解し、記述や報告の方法を身につける。

### 教育課程方針 (カリキュラムポリシー)

生活福祉学科では、「人間と社会」、「介護」および「こころとからだのしくみ」の3領域における科目の連携を重視して、以下のカリキュラムを編成しています。

- ① 「人間と社会」では、総合的な判断力、豊かな人間性を身につけるため、尊厳の保持や個別ケア、高いコミュニケーション技術を身につけ、介護保険法、障害者自立支援法等、社会保障制度の仕組みや利用者の権利擁護の理解を深める。
- ② 「介護」では、その人らしい生活を支えるため、自立支援の視点を重視し、介護予防から看取りまで介護福祉士に必要な専門的知識・技術を学ぶ。また、多様な介護ニーズに対応するため、利用者を取り巻く人への精神的支援やコミュニケーション技術も学習する。
- ③ 「こころとからだのしくみ」では、医学、看護、リハビリテーション、心理等の知識や技術の他、認知症や知的・精神・障害等のニーズに対応できるよう、心理的・社会的ケアの方法を学び、他職種協働のチームアプローチができるよう理解を深める。

### 入学者選抜方針 (アドミッションポリシー)

生活福祉学科では、介護現場に必要な「温かさ」「優しさ」を基盤として、社会の多様化した介護ニーズに対応するため、豊かな人間性を身につけ、福祉や介護の専門的知識や技術を幅広く習得し、高い専門性と実践力のある介護福祉士の育成を目的とし、次のような能力、意欲、適性を持った学生を受け入れることを基本方針とします。

- ① 自分を成長させ、人の役に立ちたいという意欲のある人。
- ② 人が好きで、介護や福祉の仕事に関心がある人。
- ③ 世の中の出来事に関心を持ち、社会をよくしたいという目的意識のある人。
- ④ 介護の知識や技術、制度等を学習するために必要となる、基礎学力がある人。